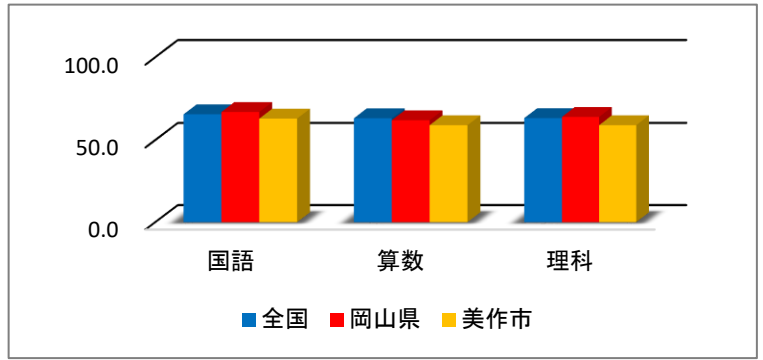


○平均正答率(小6) 割合(%)

| | 国語 | 算数 | 理科 |
|-----|------|------|------|
| 全国 | 65.6 | 63.2 | 63.3 |
| 岡山県 | 67 | 62 | 64 |
| 美作市 | 63 | 59 | 59 |

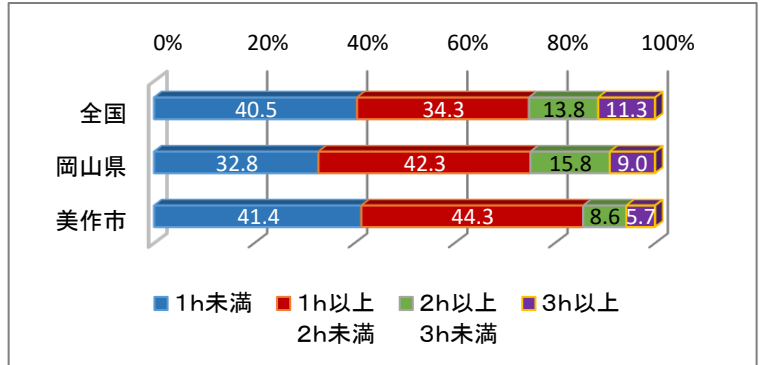
- ・国語、算数、理科すべての教科で全国、県平均を下回った。
- ・国語の漢字、文章のよいところを見つける設問で、正答率が全国平均を上回り、書く指導を重視した指導の成果が表れている。
- ・算数の割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察する設問で、全国平均を下回った。
- ・活用に課題が見られ、学んだことを関連づけて考えたり説明したりする機会を授業の中で設けていく必要がある。



○平日の家庭学習時間(小6) 割合(%)

| | 1h未満 | 1h以上 2h未満 | 2h以上 3h未満 | 3h以上 |
|-----|------|--------------|--------------|------|
| 全国 | 40.5 | 34.3 | 13.8 | 11.3 |
| 岡山県 | 32.8 | 42.3 | 15.8 | 9.0 |
| 美作市 | 41.4 | 44.3 | 8.6 | 5.7 |

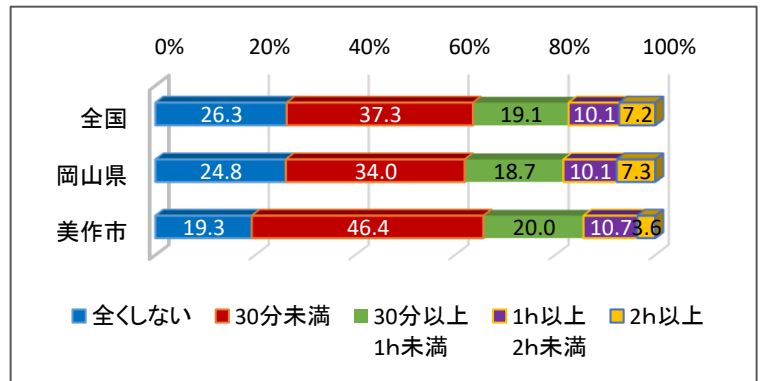
- ・家庭学習時間は昨年度(5年生時実施県調査結果)と比較すると、1時間未満の割合が7.7ポイント増加した。
- ・1時間未満の割合は全国、県と比べ高い数値である。学校全体での取組と家庭と連携した具体的な取組が必要である。



○平日の読書の時間(小6) 割合(%)

| | 全くしない | 30分未満 | 30分以上 1h未満 | 1h以上 2h未満 | 2h以上 |
|-----|-------|-------|---------------|--------------|------|
| 全国 | 26.3 | 37.3 | 19.1 | 10.1 | 7.2 |
| 岡山県 | 24.8 | 34.0 | 18.7 | 10.1 | 7.3 |
| 美作市 | 19.3 | 46.4 | 20.0 | 10.7 | 3.6 |

- ・読書の時間については、「全くしない」という児童の割合は全国、県と比較すると少ない。
- ・1時間以上の割合が全国、県の数値と比較すると少ない。
- ・家庭と連携した読書の取組の強化が必要である。



【全国学力・学習状況調査において明らかになった成果と課題】

- ・除法で求めることができる理由を記述する設問で、正答率が全国平均を上回った。今後も、日常生活の問題を解決する場面で、計算の意味や仕方を考えて説明する活動を大切にしたい。
- ・活用力を問う記述式問題について、無回答率が高い問題も見られた。問題を正確に素早く読み取ったり、自分の考えを書いたりすることが引き続き課題である。言語活動を工夫し、互いの考えを交流する活動を設定する必要がある。
- ・「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」という質問では「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」という割合は全国平均を上回ったが、「理科の勉強は好きですか」の質問では全国平均を下回った。
- ・家庭学習時間は1時間未満の割合が全国・県より多く、昨年度と比較しても時間が減少傾向である。
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」「自分にはよいところがありますか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」という割合は全国平均を上回っている。

【課題に応じた改善のポイント】

- 授業改善の推進 ～主体的・対話的に学ぶ活動を工夫し、学びの深まりを実感させる授業づくり～
 - ・「岡山型学習指導のスタンダード」に基づいた授業5の視点に加え、「岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善『一歩先へ』」に示されている児童生徒が主役となる授業づくりと全体を見通した単元計画を行うことを重点として、授業改善を進める。
 - 自己の学びの成果が実感できる「振り返り」の充実を図る。
 - 言語活動を重視した授業づくりを行い、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
 - 一人一台端末などICT機器をより一層活用した効果的な授業実践を行う。
 - 家庭学習につなげる授業づくり(復習、予習、自主学習の充実)と家庭学習の出し方(質と量)の工夫を行う。
- 落ち着いた学習環境下での学ぶ意欲の向上
 - ・人間関係づくりを大切にしたい学級集団づくり
- 補充学習の充実(朝の学習、放課後学習、問題データベース、タブレットドリル活用)
- 生活習慣、学習習慣の確立
 - ・家庭学習のスタンダード、家庭学習の手引きに基づいた取組の充実(例:自主学習ノートの活用、手本となるノートの紹介等、成長を実感させる評価の工夫)
 - ・中学校区で連携した取組の充実(例:ノーメディアデー、スマートフォンの使用について家庭への啓発等)